

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 3 2	滋賀医科大学福祉保健医学講座
<b>題名 (原題/訳)</b> Heavy drinking from the freshman year into early young adulthood: the roles of stress, tension-reduction drinking motives, gender and personality. 大学1年次から青年期早期にかけての多量飲酒とストレス、緊張を低減させるための飲酒、性別や性格との関係	
<b>執筆者</b> Rutledge PC, Sher KJ.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> J Stud Alcohol. 2001 Jul;62(4):457-66.	
<b>キーワード</b> 青年期、多量飲酒、ストレス、性格	
<b>要 旨</b> <p>                     目的： この研究では青年期における多量飲酒とストレス（否定的な人生上の出来事や精神的苦痛）や緊張を低減させるための飲酒、性別の関係を調べた。性格的な要素（神経症的性格や外向性）との関連についても調査した。                 </p> <p>                     方法： 調査は7学年にわたって実施され、485名（うち女性は255名）のデータが得られた。ストレス（否定的な人生上の出来事や精神的苦痛）や飲酒動機が緊張低減であること、性別や性格と多量飲酒の関係について階層的重回帰分析を用いて分析を行った。                 </p> <p>                     結果： ストレス（否定的な人生上の出来事）は多量飲酒と関係が認められた。緊張を低減させるために飲酒するという動機と多量飲酒との間にも学年があがるにつれて関係が認められた。男性では大学卒業後、緊張を低減させるために飲酒するという動機と多量飲酒の関係はさらに強くなったが、女性ではあまり関係は認められなかった。                 </p>	